

都市再生整備計画 事後評価シート

う ら そ え し な か ま
浦添市仲間地区

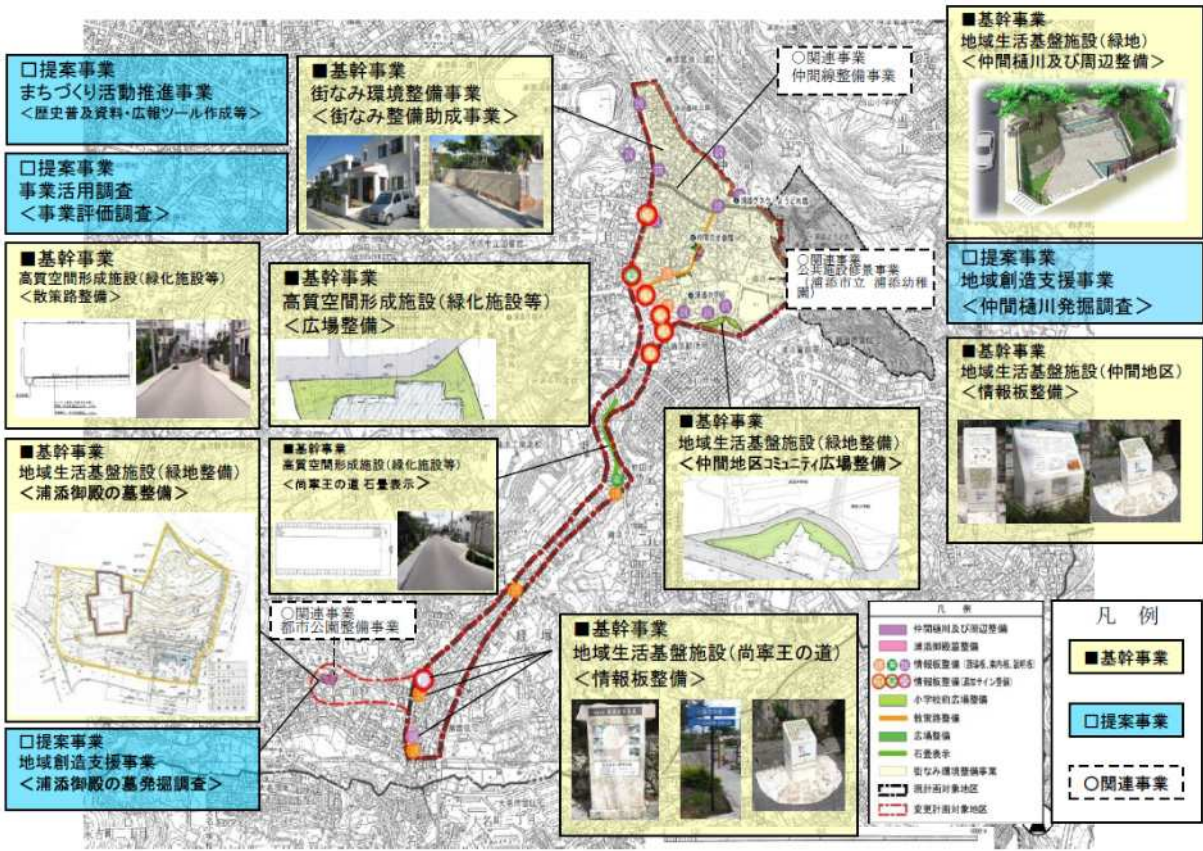
平成24年3月

沖縄県浦添市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	沖縄県		市町村名	浦添市		地区名	浦添市仲間地区			面積		25 ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	214百万円		国費率	0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地域生活基盤施設(①仲間地区(緑地):仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備 ②尚寧王の道コース(情報板) ③仲間地区(情報板)) 高質空間形成施設(①仲間地区(緑化施設等):散策路及び浦添中学校前の広場整備) 街なみ環境整備事業(①仲間地区(街なみ整備助成事業))										
		提案事業	地域創造支援事業(①仲間樋川発掘調査(仲間地区)) 事業活用調査(①事業評価調査) まちづくり活動推進事業(①歴史普及資料・広報ツール作成等)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし			-			-				
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(④仲間地区(緑地):仲間地区コミュニティ広場整備 ⑤沢岬地区(緑地):浦添御殿の墓整備 ⑥尚寧王の道コース(情報板):追加サイン工事) 高質空間形成施設(②尚寧王の道コース(緑地施設等):石畳表示)			中間モニタリングでのまちの課題の変化等を踏まえて、事業を追加した。			影響なし				
		提案事業	地域創造支援事業(②浦添御殿の墓発掘調査)			中間モニタリングでのまちの課題の変化等を踏まえて、事業を追加した。			影響なし				
	交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
	変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	満足度(景観)	%	37.9%	H18	60%	H23	46.2%	66.2%	○	あり なし	仲間地区での景観まちづくり関連事業が進み、「浦添グスクにふさわしい歴史的なまち並み景観になっていると思う」と回答した人の割合が目標値を上回った。	
	指標2	ウォークラリー参加人数	人	85人	H18	170人	H23	176人	210人	○	あり なし	毎年文化の日に行われるウォークラリーイベント(歴史ロマン街道～「尚寧王の道」をたどる～)が定着してきており、マスコミの取材も行われるなど目標値を大きく上回った。	
	指標3	歴史ガイドの活用人数	人	2,083人	H18	3,100人	H23	2,972人	3,992人	○	あり なし	NPO法人「うらおそい歴史ガイド友の会」の活動内容が周知されてきており、利用者が目標値を上回った。	
	指標4										あり なし		
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1												
その他の数値指標2													
4)定性的な効果発現状況	・仲間地区はもとよりグスクを取り巻く周辺地区においても、地域の歴史的資源を活かした景観まちづくりへの関心が高まった。 ・尚寧王の道が広く知られるようになり、浦添グスクと首里城との一体感や関連性が市民等により認識されるようになった。 ・各種情報板に整備や、NPO法人「ウラオソイ歴史ガイド友の会」の活用等により情報発信が効果的に行えるようになった。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	平成21年度に事業評価調査(中間モニタリング)を実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	街なみ環境整備事業において住民とともに景観形成基準を作成仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備において地区住民とのワークショップを開催し整備計画を作成				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●			
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

浦添市仲間地区（沖縄県浦添市）都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標：ウラオソイ廻廊プラン・・・歴史・文化の廻廊づくり		満足度（景観）	単位：％	37.9％	H18	66.2％ H23
目標1：浦添グスクのグスクまちにふさわしい歴史的なまち並み景観の形成		ウォークラリー参加人数	単位：人	85人	H18	210人 H23
目標2：浦添グスクと首里城を結ぶ「尚寧王の道」の連続性の確保		歴史ガイドの活用人数	単位：人	2,083人	H18	3,100人 H23
目標3：地域への愛着を高めるため歴史的資源の利活用の促進						
 ■提案事業 まちづくり活動推進事業 ＜歴史普及資料・広報ツール作成等＞ ■基幹事業 街なみ環境整備事業 ＜街なみ整備助成事業＞ ■基幹事業 高質空間形成施設（緑化施設等） ＜散策路整備＞ ■基幹事業 高質空間形成施設（緑化施設等） ＜広場整備＞ ■基幹事業 地域生活基盤施設（緑地整備） ＜浦添御殿の墓整備＞ ■基幹事業 高質空間形成施設（緑化施設等） ＜尚寧王の道 石畳表示＞ ■基幹事業 地域生活基盤施設（緑地整備） ＜仲間地区コミュニティ広場整備＞ ■基幹事業 地域生活基盤施設（尚寧王の道） ＜情報板整備＞ ○関連事業 仲間路整備事業 ○関連事業 浦添市立 浦添幼稚園 ○提案事業 地域創造支援事業 ＜仲間樋川発掘調査＞ ■基幹事業 地域生活基盤施設（仲間地区） ＜情報板整備＞ ○提案事業 地域創造支援事業 ＜浦添御殿の墓発掘調査＞ 凡 例 ■基幹事業 □提案事業 ○関連事業 凡 例 - 仲間樋川及び周辺整備 - 浦添御殿整備 - 情報板整備（道路、案内、説明等） - 情報板整備（道路サイン等） - 小学校前広場整備 - 散策路整備 - 広場整備 - 石畳表示 - 型のみ環境整備事業 - 県計画対象地区 - 変更計画対象地区						
まちの課題の変化	・景観まちづくりが一定の成果を上げつつも、依然としてグスクまちとしての歴史的なたたずまいに欠けるのではないか。 ・一定の成果を上げつつも、依然として宿道の連続性に欠けるのではないか。 ・グスクを取りまく周辺地区では、シンボルロード整備と浦添大公園エントランス整備が予定されているが、賑わい創出のための仕組みづくりが重要ではないか。また、都市モノレール新駅設置に備えた基盤整備も必要ではないか。 ・グスクを取りまく周辺地区は、旧集落や新たな住宅地が大部分を占めることから、緑豊かな市街地整備及び住環境保全が重要ではないか。また、景観に配慮したまち並みやユニバーサルデザインも考慮したまちづくりも必要ではないか。					
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・引き続き、仲間地区及び周辺地区の歴史的資源の施設整備や景観形成事業等を推進する。 ・引き続き、宿道の情報機能等の充実による魅力の向上を図る。 ・引き続き、浦添グスクを中心とした仲間地区及び周辺地区の文化情報発信機能を充実させる。 ・第3駅周辺の土地利用とモノレール沿線及び茶山地区等のまち並みに関する検討を地域住民とともに進める。					

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ~~添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	仲間地区(緑地)	53	仲間樋川及び小広場の緑地整備	37	仲間樋川及び小広場の緑地整備	仲間樋川発掘調査の結果、確認された石張り遺構が少なく樋川復元整備工事額が縮減したため	影響なし	●	
	尚寧王の道コース(情報板)	8	尚寧王の道への情報板整備	8	尚寧王の道への情報板整備	当初計画どおり	影響なし	●	
	仲間地区(情報板)	30	仲間地区内への情報板整備	30	仲間地区内への情報板整備	仲間樋川整備費縮減を受け、事業年度の前倒しを実施。整備内容はほぼ当初計画どおり	影響なし	●	
	仲間地区(緑地):仲間地区コミュニティ広場整備			40	浦添小学校及び中学校の南側市有地への緑地整備	モノレール新駅周辺の、仲間地区の浦添グスクにふさわしい歴史駅なまち並み景観の向上に資するため	影響なし	●	
	尚寧王の道コース(緑地):浦添御殿の墓整備			34	市指定文化財となった浦添御殿の墓の整備	貴重な浦添御殿の墓を保存整備し、尚寧王の道の利活用向上に資するため	影響なし	●	
	尚寧王の道コース(情報板):追加サイン工事			6	尚寧王の道への情報板整備	H19年に整備した尚寧王の道の情報板について、追加必要箇所の整備を実施し、利活用の向上に資するため	影響なし	●	
高質空間形成施設	仲間地区(緑化施設等)	30	浦添中学校前での広場整備及び仲間地区内での散策路整備	32	浦添中学校前での広場整備及び仲間地区内での散策路整備	当初計画どおり	影響なし	●	
	尚寧王の道コース(緑地施設等):石畳表示			11	尚寧王の道への一部石畳舗装整備	尚寧王の道について、その連続性をより具現化するため	影響なし	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	仲間地区(街なみ整備助成事業)	31	仲間地区内での街なみ整備助成事業	31	仲間地区内での街なみ整備助成事業	地元の動き等を勘案し事業費を精査	影響なし	●	
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	仲間樋川発掘調査	3	仲間樋川地区文化財発掘調査	3	仲間樋川地区文化財発掘調査	当初計画どおり	影響なし	●	
	浦添御殿の墓発掘調査			2	浦添御殿の墓の発掘調査	尚寧王の道について、その連続性をより具現化するため	影響なし	●	
事業活用調査	事業評価調査	4	事業評価調査	6	事業評価調査	当初計画どおり	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	歴史普及資料・広報ツール作成等	3	歴史普及資料・広報ツール作成	3	歴史普及資料・広報ツール作成	当初計画どおり	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費(百万円)		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
仲間線整備事業		市道仲間線	75	105	平成19年～平成20年度	平成20年～平成22年度	平成22年度事業完了	事業主体:浦添市 所管省庁:防衛省→国交省 規模:2,800㎡→1,918㎡
公共施設修景事業(浦添市立浦添幼稚園)		仲間地区内 浦添幼稚園	—	170	平成19年～平成20年度	平成19年度	平成19年度事業完了	事業主体:浦添市 所管省庁:文部科学省 規模:700㎡→829㎡ 総事業費:170百万円
都市公園整備事業		沢岬地内	—	314	平成19年～平成23年度	—	平成23年度事業完了予定	事業主体:浦添市 所管省庁:防衛省 規模:0.37ha 総事業費:314百万円

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	満足度(景観)	%	仲間地区住民120人及び浦添 中学校生徒67人に対して、地 区の街並みが「浦添グスクにふ さわしい歴史的なまち並み景観 になっていると思う」と回答した 人の割合			37.9%	H18	60%	H23	モニタリング	H21	46.2%	モニタリング	△		
										事後評価	確定 見込み	66.2%	事後評価	○		
指標2	ウォークラリー参加人数	人	浦添グスクから首里城までの ウォークラリーイベント(歴史ロ マン街道～「尚寧王の道」をたど る～)への参加人数			85人	H18	170人	H23	モニタリング	H21	176人	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み	210人	事後評価	○		
指標3	歴史ガイドの活用人数	人	NPO法人「ウラオソイ歴史ガイ ド友の会」が主催する歴史ガイド 事業を利用した人数			2083人	H18	3,100人	H23	モニタリング	H20	2,972人	モニタリング	△		
										事後評価	確定 見込み	3,992人	事後評価	○		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	仲間地区での景観まちづくり関連事業が進み、「浦添グスクにふさわしい歴史的なまち並み景観になっている と思う」と回答した人の割合が目標値を上回った。	
指標2	毎年文化の日に行われるウォークラリーイベント(歴史ロマン街道～「尚寧王の道」をたどる～)が定着してき ており、マスコミの取材も行われるなど目標値を大きく上回った。	
指標3	NPO法人「ウラオソイ歴史ガイド友の会」の活動内容が周知されてきており、利用者が目標値を上回った。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	基準 年度	従前値 (イ)	基準 年度	数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の 数値指標1								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標2								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標3								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・仲間地区はもとよりグスクを取り巻く周辺地区においても、地域の歴史的資源を活かした景観まちづくりへの関心が高まった。
- ・尚寧王の道が広く知られるようになり、浦添グスクと首里城との一体感や関連性が市民等により認識されるようになった。
- ・各種情報板に整備や、NPO法人「ウラオソイ歴史ガイド友の会」の活用等により情報発信が効果的に行えるようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
平成21年度に事業評価調査(中間モニタリング)を実施	予定どおり実施した	平成21年度実施	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
街なみ環境整備事業の景観形成基準の作成	予定どおり実施した	住民との意見交換を重ね、景観法に則り、街なみ環境整備事業の景観形成の基準を作った(平成19年度地元合意の上、平成20年7月施行)	引き続き必要に応じて地元との対話を行いながら景観まちづくりの推進を図っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備において地区住民とのワークショップを開催し整備計画を作成	予定どおり実施した	仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備において、地区内住民とのワークショップにより、整備計画の作成を行った(平成20年度下期実施)	引き続き必要に応じて地元との対話を行いながら景観まちづくりの推進を図っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討チーム会議	都市建設部都市計画課 景観まちづくり室 教育委員会文化課	平成24年1月20日	浦添市都市建設部 都市計画課景観まちづくり室

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3					
指 標 名		満足度(景観)		ウォークラリー参加人数		歴史ガイドの活用人数					
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見		
基幹事業	仲間地区(緑地):仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備	◎	仲間地区での景観まちづくり関連事業が進み、「浦添グスクにふさわしい歴史的なまち並み景観になっていると思う」と回答した人の割合が目標値を上回るなど効果の発現が見られる。	○	毎年文化の日に行われるウォークラリーイベント(歴史ロマン街道～「尚寧王の道」をたどる～)が定着してきており、マスコミの取材も行われるなど目標値を大きく上回るなど効果の発現が見られる。	○	NPO法人「うらおそい歴史ガイド友の会」の活動内容が周知されてきており、利用者が目標値を上回るなど効果の発現が見られる。				
	尚寧王の道コース(情報板)	○		◎		◎		◎			
	仲間地区(情報板)	◎		◎		◎		◎			
	仲間地区(緑化施設等):散策路及び浦添中学校前の広場整備	◎		◎		◎		◎			
	仲間地区(街なみ整備助成事業)	◎		◎		◎		◎			
	仲間地区(緑地):仲間地区コミュニティ広場整備	◎		○		○		○			
	尚寧王の道コース(緑地):浦添御殿の墓整備	○		◎		◎		◎			
	尚寧王の道コース(情報板):追加サイン工事	○		◎		◎		◎			
	尚寧王の道コース(緑地施設等):石畳表示	○		◎		◎		◎			
提案事業	仲間樋川発掘調査(仲間地区)	◎		◎		◎					
	事業評価調査					◎		◎		◎	
	歴史普及資料・広報ツール作成等	○		◎		◎		◎		◎	
	浦添御殿の墓発掘調査	○		◎		◎		◎		◎	
関連事業	仲間線整備事業	◎				◎				◎	
	公共施設修景事業(浦添市立浦添幼稚園)	◎				○				○	
	都市公園整備事業(沢岬地内)	○				◎				◎	

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 ー:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	景観まちづくりに関する事業を推進し、効果の発現を確実なものとして定着させる。	市民と来訪者とのさらなる交流を促し、新たな観光ルートとして定着させる。	魅力ある地域資源の発掘を通して歴史ガイドの活用を定着させる。
-------	--	-------------------------------------	--------------------------------

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織「浦添市仲間地区都市再生整備計画まちづくり検討チーム」	都市計画課、景観まちづくり室、文化課	平成24年1月20日	都市計画課(景観まちづくり室)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
世界遺産追加登録を目指し浦添グスクやようどれ、ようどれ館等の整備が鋭意進められているが、グスクまちとしての歴史的なたたずまいのまち並みが感じられないのではないか。	・地区の大切な水場であり交流の場であった仲間樋川が修復整備された。 ・市道仲間線の整備とあわせて沿道の塀等が整備され通りとしての景観がよかった。 ・小広場や緑化施設が整備され、地区に緑が増えうるおいあるまち並みが進んだ。 ・赤瓦等の助成制度を活用し景観まちづくりを実践する住民が増えた。	景観まちづくりが一定の成果を上げつつも、依然としてグスクまちとしての歴史的なたたずまいに欠けるのではないか。	・グスクを取りまく周辺地区では、シンボルロード整備と浦添大公園エントランス整備が予定されているが、賑わい創出のための仕組みづくりが重要ではないか。また、都市モノレール新駅設置に備えた基盤整備も必要ではないか。 ・グスクを取りまく周辺地区は、旧集落や新たな住宅地が大部分を占めることから、緑豊かな市街地整備及び住環境保全が重要ではないか。また、景観に配慮したまち並みやユニバーサルデザインも考慮したまちづくりも必要ではないか。
浦添グスクと首里城を結ぶ宿道沿いに多くの歴史的資源が分布しており、先行して安波茶橋の整備を行っているが、点的な整備にとどまっており、宿道の連続性が感じられないのではないか。	・案内板や情報板が整備され、歴史の道の連続性を感じやすくなった。 ・尚寧王の道のウォークラリーが定着してきており、参加者も増えている。 ・沿道の歩道が琉球石灰岩張りになるなど、以前よりも歴史の道の連続性が感じられるようになった。	一定の成果を上げつつも、依然として宿道の連続性に欠けるのではないかな。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	浦添グスクのグスクまちにふさわしい歴史的なまち並み景観の形成	引き続き、仲間地区及び周辺地区の歴史的資源の施設整備や景観形成事業等を推進する。	①安波茶樋川整備 ②クバサーヌ御獄及仲間火叉神整備 ③街なみ環境整備
	浦添グスクと首里城を結ぶ「尚寧王の道」の連続性の確保	引き続き、宿道の情報機能等の充実による魅力の向上を図る。	①「尚寧王の道」の石畳表示 ②「尚寧王の道」の情報板設置
	地域への愛着を高めるため歴史的資源の利活用の促進	引き続き、浦添グスクを中心とした仲間地区及び周辺地区の文化情報発信機能を充実させる。	①「茶山御殿」石碑設置 ②文化財活用・保全の検討 ③歴史普及・広報資料等の作成

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	モノレール新駅設置も見据えた、賑わいがあり、歩いて楽しい歩行者環境の向上と緑豊かなまち並み景観形成の推進	第3駅周辺の土地利用とモノレール沿線及び茶山地区等のまち並みに関する検討を地域住民とともに進める。	①茶山一号線整備 ②斜面緑地保全・整備 ③トンネル等修景整備 ④モノレール周辺まちづくりの検討 ⑤街なみ環境整備(再掲)

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値	年度	目標値	年度	評 価 値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			単位									予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	満足度(景観)	%	37.9%	H18	60%	H23	確定	●	66.2%	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標2	ウォークラリー参加人数	人	85人	H18	170人	H23	確定	●	210人	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標3	歴史ガイドの活用人数	人	2083人	H18	3,100人	H23	確定	●	3,992人	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標4				H		H	確定				あり	→			
							見込み				なし				
指標5				H		H	確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1				H			確定					→			
							見込み								
その他の数値指標2				H			確定					→			
							見込み								
その他の数値指標3				H			確定					→			
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	景観まちづくり関連事業が進み、毎年文化の日に行われるウォークラリーイベントやNPO法人「うらおそい歴史ガイド友の会」の活動内容も周知されつつあることにより、数値目標を達成することができた。	
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		満足度については、新たな項目の追加や指標そのものの変更も検討が必要になると考えられる。
	うまくいかなかった点	満足度については数値目標を達成したものの、この値は限りなく上昇するものではなく、一定の段階で飽和状態になるものと懸念される。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	街なみ環境整備事業において住民とともに景観形成基準を作成し、仲間樋川及び周辺小広場の緑地整備において地区住民とのワークショップを開催し整備計画を作成することができた。	協働のまちづくりを一層推進していくためにも、幅広く住民を参加させる工夫が必要になると考えられる。
	うまくいかなかった点	協働のまちづくりが定着しつつあるが、地域の参加者が常に一部の人にとどまりがちなのが懸念される。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、交付期間中の事業の進捗状況や効果の確認を行うことができ、より適切な事業展開にむけた事業の見直しを行うことができた。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	原案を市のホームページに掲載	平成24年2月6日～2月17日	平成24年2月6日～2月17日	景観まちづくり室への 電話、FAX、電子メール、郵送、及び窓口持参	浦添市都市建設部 都市計画課 景観まちづくり室
広報掲載・回覧・個別配布	市広報に市のホームページで原案を公表する旨を掲載	平成24年2月1日発行 広報2月号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	浦添市都市計画課窓口での閲覧	平成24年2月6日～2月17日	平成24年2月6日～2月17日		

住民の意見	1)ここ数年で様々な事業が展開されたことを実感した。しかし、事業が今年度で終了すると伺っており今後に不安を感じる。できれば今後も尚一層景観に配慮した街づくりに期待したい。 2)仲間樋川や小・中学校前の緑地整備などの事業には一定の評価をしたいが、市民の意見を取り入れた取り組みを今後も続けてもらいた。 3)地域の歴史的な資源を活用した景観づくりに取り組んでいることがわかった。いろんな事業が進められて浦添グスク周辺が少しずつ歴史を感じさせる地域になってきたと感じている。しかし、まだまだ周辺地域には多くの歴史的資源や場所があるので、地域住民と行政が連携して、更に歴史を感じさせる景観づくりを進めてほしい。
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	浦添市仲間地区まちづくり交付金事後評価委員会 (浦添市景観まちづくり審議会 専門部会)	平成24年2月24日	浦添市都市建設部 都市計画課 景観まちづくり室	浦添市景観まちづくり審議会設置要綱(浦添市景観まちづくり条例)	浦添市景観まちづくり審議会
その他の委員	仲間地区自治会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	数値目標が達成され成果のあったことが確認された。
	実施過程の評価	評価の内容が妥当であると確認された。
	効果発現要因の整理	整理の内容が妥当であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	公表及び結果の対応が妥当であると確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	今後のまちづくり方策の作成が妥当であると確認された。
	フォローアップ	—
	その他	本事業は指標を達成しており評価はできるが、地区における「まちづくり」は5ヵ年で完結できるものではないことから今後とも事業の展開を検討するべきではないか。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策が妥当であると確認された。
その他		目標値自体は達成されており問題はないが、今後は事業自体の多目的功績(満足度のみでは捉ぎきれない効果等)を細やかに分析・整理していく必要があるのではないかと